

1953 肢体不自由児キャンプから学ぶ～ 人間の尊厳とは何か？

「1953年、日本で最初の肢体不自由児キャンプは、手足に障害のある子どもたちに活動の喜びを与えただけでなく、奉仕した青年リーダーたちにとっても「生」の問題を共有するよい機会でもあった（神戸とYMCA100年,1987）」当時、障害のある子どもたちが外で遊ぶこともままならなかった時代。キャンプによって「人間の尊厳」を感じたリーダーたち。そして、創設期のキャンプを支えたリーダーは何を感じ、何を思ったのか？
当時の様子を伺い、これからを考える1日です。

スピーカー

片岡 實さん 肢体不自由児キャンプ参加(1953,55, 余島)

私は肢体不自由児キャンプの1期生です。小児マヒで手足が不自由な私は、喜びと元気と勇気をもらいました。地域の障害のある子どもと遊ぶボランティア活動をすすめ、2つの民間福祉活動をしています。

公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団 理事長
社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会 理事長

京極 美榮子さん

肢体不自由児キャンプリーダー(1953, 余島)

石田 英子さん

チェシャーホーム「はんしん自立の家」施設長

Time	内容
13:30	受付開始
14:00	《講話》 「肢体不自由児キャンプの思い出」 スピーカー：片岡さん、京極さん 聞き手：阪田晃一（神戸YMCA）
15:30	《施設見学》 ご案内：石田英子さん ボランティアの皆さん
16:00	《グループディスカッション》 テーマ 今考える『人間の尊厳とは何か？』
17:30	分かち合い《シェアの時間》
17:45	クロージング

協 力

社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会 チェシャーホーム「はんしん自立の家」

ここでは50人のハンディキャップのある「入居者」が生活しています。入居者が親から離れて、一人の社会人として、自分の意思で主体的に自由に「生活する場」であり、街の住人としての「地域の中で暮らし」、毎日の「装いと潤いのある暮らし」が当たり前のこととして進んでいくのです。「ノーマライゼーション」～一人ひとりが、同じ社会を構成する大切な人間であり、障害者ではなくハンディキャップのある普通の人として生活をしていく～を、「はんしん自立の家」で実現していこうと思っています。

「はんしん自立の家」は、英国「チェシャーホーム」の理念を受け継ぎ、日本で2番目の「チェシャーホーム」として、1985年7月1日にオープンしました。運営は「社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会」が行っています。～HPより抜粋

概 要

主 催：神戸YMCA

協 力：はんしん自立の家

申し込み：専用フォームよりお申し込みください

<http://goo.gl/forms/oDpVM6dfIc>

日 時：2015年11月29日（日）14時～18時 ※予定

定 員：100名

会 場：はんしん自立の家

参加費：無料 ※募金箱を設置します

高校生対象キャンプボランティア LIT&CIT募集！

LITとはLeader in Training（リーダーイントレーニング）、CITはCounselor in Training（キャンプカウンセラートレーニング）を指し、主に高校生を対象にしたボランティア参加システムです。YMCAの幾つかのプログラムに、ボランティアリーダー（イントレーニング；養成中）として参加することができます。プログラムに参加するためには、事前研修を受講する必要があります。

私たちはYMCAはすべての人が、ボランティアを通して、自分の夢に向かって力強く成長していくことを願っています。皆様のご参加をお待ちしております。